

2016年8月9日

リチウムイオン電池用導電助剤 VGCF® 生産能力増強を決定

—川崎事業所の生産能力を引き上げ 需要増大に対応—

昭和電工株式会社（社長：市川 秀夫）は、リチウムイオン電池（LIB）向け正負極用導電助剤「VGCF®（気相法炭素繊維）」の生産能力を増強します。車載向けLIBの需要増大にあわせ、当社川崎事業所（神奈川県川崎市）の年産200トンの生産能力を、2017年末までに段階的に年産300トンへ引き上げます。

LIB材料市場は、スマートフォンなどの小型用途向けに加え、車載用をはじめとした大型用途向けの需要により急速に拡大しております。特に中国における電気自動車市場は大幅に拡大しており、さらには欧州におけるCO₂排出量規制を受けた電気自動車の市場投入加速などで、今後もLIB市場は堅調に推移することが見込まれます。

当社はこれまでLIB市場の動向に応じて供給体制を整備してまいりましたが、今回の拡大は当初の予想を上回ることから、生産能力の増強を決定したものです。本能力増強は需要動向を勘案しながら段階的に行う予定で、2017年上期に年産250トンに引き上げた後、2017年末には完工します。

VGCF®はLIBの正極材、負極材いずれにも添加される導電助剤です。LIBは充放電を繰り返すことで膨張・収縮するため、活物質同士の接点が徐々に失われますが、導電助剤は接点の失われた活物質同士をつなぐ役割を持ち、電池の劣化を抑制します。粒子状の導電助剤に比べ、繊維状のVGCF®は分散性が高く、少量の添加でLIBの高容量化、長寿命化を可能にします。熱伝導性も高く、電極からの放熱を促進し、LIBの安全性を向上させます。

当社は、本年より開始した中期経営計画「Project 2020+」において、LIB材料を優位確立事業に位置付けており、2018年には同事業の売上高300億円を目指します。

当社グループはLIB材料においてVGCF®のほか、負極材SCMG®、電池包材用アルミラミネートフィルムSPALF®、カーボンコートアルミ箔SDX®、負極材用バインダーPolysol®を取り揃えており、「高容量・低抵抗・長寿命」という価値を提供しております。伸長する需要に対応するため、順次生産能力の増強を図るとともに、今後も地球環境への負荷低減に寄与する技術として、開発を加速し、事業の強化を進めてまいります。

以上

